

## 研究課題名

### QFT 検査における判定保留について ―再採血による結果の検討― (追加調査)

本調査研究は、ちば県民保健予防財団倫理審査委員会の審査結果（承認）を踏まえて理事長が許可した研究です。平成 27 年 4 月から平成 30 年 3 月までの期間に当財団で QFT 検査を受けた方を対象とし、平成 31 年 3 月 31 日までの予定で実施します。

QFT 検査は結核診断の補助検査として広く普及しており、QFT 検査の判定基準には陽性、判定保留、陰性、判定不可の 4 つがあります。判定保留は臨床症状や感染源の排菌状況、接触期間などを考慮し、経過観察や再検査を行い総合的に判定するとされています。結核感染の可能性が低い場合には陰性と同様に扱うとされていますが、接触者健診において感染の可能性が高い場合には陽性と同様に扱うとされています。

この調査研究は平成 27 年度から 3 年間に行われた QFT 検査の検査結果について、判定保留者の再採血による検査結果を把握することを目的とし、また、判定保留者の背景を調べることにより判定保留から陽性となる要因がわかる可能性があるため、千葉県内の保健所を対象に追加調査を行いました。QFT 検査で判定保留者の再採血による検査結果を検討することで、接触者健診の対応への一助となります。

## 研究責任者

検査部一般検査課 細菌検査室 岡田奈生